きこえとことば通信

令和６年(2024)３月
小金井第二小学校
こだま学級
TEL042-385-3327

やわらかな日差しが心地よく感じられるようになり、ようやく春めいてきました。

今年度も終わりに近付き、子供たちと１年間取り組んできたことについて、頑張りや成長を振り返り、まとめをしているところです。それぞれができるようになったことを言葉にして伝え、子供たちが自信をもって新年度を迎えられるようにしていきたいと思います。

３月末で６年生３名を含む、１３名の子供たちがこだま学級を巣立っていきます。卒業・退級されても、こだま学級の職員一同は、ずっと皆さんのことを応援しています。

保護者の皆様、担任の先生方、今年度もたくさんのご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

全体グループ学習～卒業を祝う会～

３学期は、こだま学級を卒業する友達をみんなでお祝いします。
好きなことや頑張ったことを発表したり、ゲームを通して交流したりしながら、楽しい時間にしましょう！
今年度最後のグループ学習です。ご参加お待ちしています。

日時：３月６日（水）15:15～16:30（受付 15:00～）
場所：こだま学級　プレイルーム

★3月・4月の予定★

３月　５日（火）	３学期　個別指導終了
３月　６日（水）	全体グループ学習（１５：１５～１６：３０　@こだまプレイルーム）
３月１１日（月）	きこえグループ学習（１５：１５～１６：３０　@こだまプレイルーム）
３月１３日（水）	吃音グループ学習（１５：１５～１６：３０　@こだまプレイルーム）
４月１５日（月）	保護者会　１０：００～１１：００ ＊学級説明・担任紹介・通級日時と担当者をお伝えします。
４月１９日（金）	１学期　通級指導開始

【お知らせ】
令和６年度の通級予定者は、クラスと担任の先生が分かりましたら、こだま学級まで、お電話にてお知らせください。同時に、４月の保護者会の出欠についてもお知らせください。

今月の特集

～ことばを育むことばかけ～

こだま学級での子どもたちとのやり取りの中で、どのように声をかけたら伝わりやすいかな、やる気を引き出すことばはないかな、などとよく考えます。学習における「読む」「話す」「聞く」「書く」などの中でも“ことば”は土台となる大切なものです。ことばを育むには、ことばかけが大事と言われますが、具体的にはどのようにしたらいいのでしょうか。今回はことばを育むためのことばかけについて紹介します。

◇◇◇ 子どもの興味をとらえる ◇◇◇

「豊かなことばかけを」といっても、ただしゃべり続けていればいいというものではありません。子どもの興味をとらえて、自分のことばに対してどう反応するかを詳しく見てみましょう。一瞬表情がパッと明るくなる、目がキラッとする、家族の言うものの方をじーっと見るなど、子どもの興味が向けば、必ずなんらかの手がかりがあるはずです。「あ、ひこうきがとんでるよ！」と声をかけたとき、子どもがひこうきを目で追っていたら、「ひこうきってすごいね！」と、その興味をすかさずとらえて、感動を共有するようなことばかけをすることが大切です。

◇◇◇ ものの名前を教えるよりも、感動を共有することばかけをする ◇◇◇

ことばを増やすために、ものの名前や色の名前を覚えさせようと気負わないことが大切です。子どもがリンゴを見たり、指さしたりしたら、「リンゴ。赤いリンゴ。」と言うだけでなく、「リンゴ、あるね。赤いリンゴね。おいしそうね。」と、気持ちを共有し、情感を豊かに話しかけてあげましょう。そのためにも、美しいものを見たら美しいと思ったり、おいしがったり、喜んだり、悲しんだり、大人自身が感情豊かな人間でいることを忘れずにいたいですね。

◇◇◇ 「ダメ」「イケマセン」を変えてみる ◇◇◇

「走っちゃだめ！」「野菜も食べなきゃだめでしょ！」など、ダメダメと怒ってばかりはいませんか？「ダメ」「イケマセン」は、子どもを一時的に押さえる効果はあっても、ちょっと時間が経てばすぐに効力を失う、対症療法的なことばです。人の言うことを聞いたり、それぞれの場面で適切な行動をとったりすることができる子どもに育てるために、「何をすべきか」「何が要求されているのか」を、肯定的な言い方で、具体的に伝えてみましょう。また、具体的な指示や願いを伝えることのほうが、話したいと思う気持ちの基礎となる共感性を、子どもの中に育てやすくなります。

走っちゃだめ！ → 車が来るからゆっくり歩こうね

◇◇◇ 映像よりも、豊かな体験を ◇◇◇

テレビやスマートフォンの映像から何かことばを覚えたり、興味のあるものに出会ったり、歌を覚えて一緒に歌ったりと、映像を見ることにも良さがあります。しかし、「豊かな体験をさせる」という観点から見ると、テレビやスマートフォンは、共に遊ぶ楽しさや、何かをつくりあげる喜び、感動を味わわせてはくれません。画面の中でではなく、実生活の中での体験を増やし、一緒にやり取りする時間を大切にしたいものです。

参考文献：「ことばをはぐくむ」著：中川信子（ぶどう社）